

「新潟県」版



*イメージ

新潟県

新潟県は、本州の日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、朝日山地、飯豊山地、越後山脈が東側に連なり、西側には妙高山などの山々がそびえています。また、信濃川や阿賀野川など数多くの河川が日本海にそそぎ、越後平野、高田平野など広大な肥沃な平野地を形成し、全国有数の食料供給基地を形成しています。気候・風土は、おおむね阿賀野川を境として、南側は北陸型、北側は東北型に入っています。

面積は12,583平方キロメートル、また本州の海岸線は330.9キロメートルと非常に長く、変化に富んだ海岸線を形成しているほか、砂丘の発達している所も多岐にわたります。新潟市の北西部45キロメートルには佐渡島が、その北東には犀島があります。佐渡島は、歴史上のいわれも多く、周囲280.6キロメートル、面積655平方キロメートルで、北に金北山を主峰とする大佐渡の山地、南は小佐渡の山地が平行して走り、中央部に国中平野が広がっています。



新潟県章
「新」を中心に「ガク」を円形に環状化しました。雄と雌の希望を象徴し、県勢の円滑な発展を祈ったものです。(昭和38年8月23日制定)



新潟県の鳥 (1年)
日本の1年、メスの「キン」を最後に、平成15年10月に絶滅してしまいましたが、平成11年に日本友鳥のあかしとして中国から譲られた2羽からの増殖活動は顕著に進展しています。一見シタガシに似ており、羽は黒頭と尾羽が鮮やかな赤褐色(いわゆぐり赤)で特徴的鳥となっています。3年は昭和40年9月13日に新潟県の鳥と指定されました。



新潟県の花 (チューリップ)
新潟県は、大正時代半ばに日本で初めてチューリップの球根の商業生産に成功し、戦前から広く栽培が行われるとともに県民に親しまれています。昭和38年8月23日に県の花に指定されました。



(各都道府県共通)
裏面『治世のイメージ』

500円ハイカラー・トラック背紙の概要

額面	500円
素材	ニッケル黄銅、白銅及び銅
直径	直径は5%、ニッケルは3%
厚さ	1.177mm
重量	7.317g
その他特徴	裏面に平字、磨き等

種類	80円郵便切手 1シート8枚
意匠	① トキと佐渡島 1年は、昭和59年を最後に絶滅したと認識していましたが、平成20年9月に佐渡島で再び野生下へ発見されました。佐渡島東部の大野島は、ドングリの日本産種の繁殖地です。ドングリマンサクの若びは黄色く、雛鳥鳴声はB月下からB月半中頃です。
	② 高田の夜桜 高田公園の桜は明治43年から1900本が植えられたのが始まりとされ、春祭りで賑わうのが「新島1000本の桜の夜桜祭り」です。二重橋の裏がぼんぼりの形かたちにも、お祭りの水面にうつる桜は白とピンクの混じりです。
	③ 長岡花火 長岡花火の発祥は、天明11(1840)年、長岡藩10代藩主長岡重頼に「7月御祭(国祭)の命」が下るの、その翌年にこの命が初めてなされたことを受けて打ち上げ「花火」が誕生と言われています。
	④ いもろ池と妙高山 いもろ池は妙高山東麓の早瀬にある長さ約500mほどの小さな池で、池いもろが流れていくところから池の音が聞こえています。妙高山は標高1,454mの山で、夏から秋にかけて大勢の登山客で賑わいます。四季折々のすばらしい自然の姿を見ることが出来ます。
	⑤ 十日町雪まつり 十日町雪まつりは市民参加型、市民まつりの習わしとして昭和59年に始まりました。雪上サーカスのパフォーマンスを飾る花火は、一面の雪景色を彩る絶景的な風景になります。
背景	真代橋 (背景写真：真 大祐)
写真撮影及び提供	① 河川 信雄 ② 本原 尚 ③ 安藤 寛 ④ 和田 ヒロシ 丸山 智(切手デザイナー)
デザイン	丸山 智(切手デザイナー)
発行日	平成21(2009)年7月8日(水)
版式刷色	グラビア6色
印刷寸法	① 縦36.0mm×横30.0mm
	②-⑤ 縦30.5mm×横25.0mm
小切れ寸法	縦39.0mm×横33.0mm
	②-⑤ 縦33.5mm×横28.0mm
シート寸法	縦178.0mm×横93.5mm

